

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302552		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム こいのさと 1階		
所在地	福島県郡山市富久山町八山田字前林5		
自己評価作成日	平成24年11月26日	評価結果市町村受理日	平成25年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成25年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・午前中は入居者様とスタッフみんなでラジオ体操やリハビリ体操に取り組んでいます。
 ・リビングではBGMに演歌や童謡を流し、つい口ずさんでしまうようなくつろぎの環境づくりをしています。
 ・季節に見合った行事を企画し、可能な限り、御家族様や近隣の方の参加も呼びかけています。
 ・鉱泉がひかれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 日頃から利用者・家族の意見・要望等を聞き対応しており、信頼関係が構築されている。
 また、職員は利用者の思いに沿って利用者本位のサービスに努めており、利用者にとって居心地の良い安心して過ごせる場所となっている。
 2. 職員育成体制が整っており、計画的に事業所内研修や外部研修を通して人材育成や職員の資質向上を図り、質の高いサービスの提供に努めている。
 3. 昨年の調査結果を踏まえ、地域の方の緊急連絡網への登録と防災協力を得ながら、各種防災訓練を毎月計画的に実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフは理念を共有し、現状よりも一歩進んだ地域との交流を図ることに努め、利用者が今も馴染みのあるこの土地で生活しているという実感をもって頂けるよう取り組んでいる。	事業所の名前を頭文字に覚えやすい理念を作成し、意識しながら日常業務を行っている。また、地域密着型サービスとしてさらに地域との交流を行えるよう努めているが、職員全員が理念を十分理解しているとは言い難い。	職員全員で理念を理解し、共有しながら実践につながるよう工夫して取り組んで欲しい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や、ホーム行事での交流や、地域のボランティア等の受け入れを行っている。清掃活動等にはホームより積極的に参加をしている。	地区の敬老会・芸能祭・クリーン作戦に利用者と参加し、事業所の夏祭りや新年会に地域の人たちにも参加してもらいながら双方向の交流を行っている。また、日舞・大正琴・フラダンス・フルート等様々なボランティアの訪問等も受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回発行している広報誌「こいのさとニュース」にて、事業所の概要や認知症について、介護保険について等のコーナーを設けて、地域の回覧板で見て頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議において、事業所の活動内容や課題について話し合いをしている。また実際に会議のメンバーに行事等にも参加して頂き、率直な意見から、ホームの運営に役立てている。会議への参加の呼びかけを行なった結果、メンバーも増え、協力を頂けるようになった。	昨年の外部評価の結果を受けて、新たな委員を委嘱した。定期的に開かれている会議の中では、事業所の状況を報告し、参加している委員からの意見や要望等が出されている。新たな委員を委嘱する際にも委員の意見を受け、委嘱した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員と運営推進会議を通しての意見交換や、行事での取り組みを見て頂き、連携を深められるよう努めている。	年に1回、本社が仲介して郡山市の行政担当者、市内にある法人内事業所の管理者、介護サービス相談員が集まり、情報交換をしたり、困難事例への助言等いただいている。日常的にも介護保険の更新等で行政担当者と連携しながら取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を受け、それをスタッフに周知すべくホームでの勉強会を実施し、理解に努めている。玄関の施錠については、夜間帯を除き施錠しないよう徹底している。	身体拘束に関わる研修を受けた職員はスタッフ会議等で伝達研修を行っている。申し送り等で具体的な例を挙げて、確認し合い個別ケアで対応しながら全職員が利用者一人ひとりに寄り添い支援を行っている。日中は玄関の施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも積極的に参加し、その後スタッフ会議において職員全体に周知できるように勉強会を行っている。身体状況についても入浴時や日常の観察に気を配っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けた職員がホーム内の勉強会を通して、職員全員に周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行い、理解して頂いたうえで契約を交わしている。制度の改正等での変更があった場合も説明し、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりや、面会の際に聴き取りを行う事で気軽に話して頂けるような雰囲気作りを行っている。苦情やご意見が寄せられた場合、真摯に受け止め、改善を図るよう常に心がけている。また介護サービス相談員の定期の訪問を得て、外部へ表せる機会も設けている。	家族の要望、意見等は面会時や状況報告時等様々な機会を活用して把握するよう努めている。職員は家族が些細なことでも言いやすい雰囲気づくりを心がけており、要望や意見は検討し、運営に反映させている。家族からの意見で職員全員が名れをつけるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に、スタッフ間で意見を述べる機会を設けたり、必要に応じて個別面談も行っている。運営に関することは本社への要望書として提出している。また月末の本社への報告の際にも、ホームでの困難事項を上げ、改善に努めている。	日常業務の中や各種会議で職員の意見や要望を聞いており、毎月末に本社へ報告し、協力を得ながら改善に努める等、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	接遇や入浴、食事介助などの部門に分けて、社内優秀な職員を表彰するなど、やりがいを持って働く事が出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は多くあり、それぞれ見合った職員が受講できるよう努めている。また法人内の研修として、認知症について理解を深める内容のものもあり、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入を通して、研修の際に同業者との交流や意見交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から日常の生活状況やこれまでの生活歴、不安なこと、要望等を聞き取り、必要なサービスについて検討し、満足のいく生活を送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様よりこれまでの生活や、今後の生活についての聞き取りを十分に行い、またこちらで提供が可能となるサービスの内容についても納得頂けるように説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族様からの情報をもとに、必要となるものの見極めをおこなっている。また必要に応じて他サービスの利用について説明をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、職員が利用者様の馴染みとなり、信頼関係を保ち、暮らしを共にしている。またそれぞれの役割を見出し、発揮できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にホームでの様子を御家族様に報告、相談し、必要に応じて協力も頂いている。また、行事等の際も毎回お知らせし、参加して頂けるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様や親戚、知人の方々が面会にいらっしゃっている。その際、また来所して頂けるようにお願いし、関係が途切れないように支援している。	家族や親戚、知人等が事業所に利用者を訪ねて来た時には、ゆっくり話しができるよう支援している。また、毎週、家族とドライブしながら外食や通い慣れた美容室に出かける等、馴染みの関係継続支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性や相性を把握し、良い関係が保てるよう、席の配置や必要に応じた職員の仲介などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、いつでも来所や相談に応じることができるよう説明し、その後のフォローが出来る体制づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成やモニタリングの際には、ご本人や御家族様から要望の聞き取りを行っている。また、日常の生活の様子などからも把握を行っている。	日頃の暮らしの中での会話や言動、行動、仕草、表情から利用者の思いや意向の把握に努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族様から、これまでの暮らしや生活歴に関する情報の収集をし、ホームでの生活がそれに近いものとなるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの生活の様子を個別に記録している。またケースカンファレンスや日々の申し送りの際に現状についての話し合いがもたれ、スタッフ間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの際は、利用者様の各担当者が中心となり、ご本人と御家族様からの要望の聞き取りを行い、医師や看護師の意見等もまじえた内容をケースカンファレンスにて検討し、職員全員で計画の立案を行っている。	介護計画は利用者や家族と医療機関から収集した情報をもとに全職員が意見を出し合い、モニタリング結果を取り入れ、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子を個別に記録をし、スタッフ間で情報の共有ができるようにしている。介護計画の実践内容も一目でわかる表記にし、見直しの際に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や事情に応じて入院中の洗濯を行うなど、柔軟に支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に住む御家族様や、運営推進会議のメンバーからの意見をもとに、地域資源の把握に努めている。またボランティアの慰問等、地域資源の活用もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族様の納得が得られたかかりつけ医による医療を受ける事ができるように支援している。	殆どの利用者が歯科医も含め、複数の往診医師の受診をしている。受診情報は家族に報告することで、共有している。緊急時や入院が必要な場合は、往診の医師の指示で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に医療連携体制による看護師の訪問があり、利用者様の状態を把握して頂いている。職員も困ったことや疑問に思うことなどを気軽に相談している。医師との連携への助言等もあり、適切な医療が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際には、こまめな面会を行ない、医師や看護師との連携に努めている。またそういった場面に備え、かかりつけ医と対応方法について確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重度化した場合における指針について説明し、重度化した場合や終末期のあり方についてご本人、御家族様と相談し、意思確認書を作成し、それに添った柔軟な対応をしている。	契約時、利用者・家族に事業所の指針を説明し、同意を得ている。利用者・家族の希望に沿って、看取り支援も行われている。終末期の場合は医師・看護師も毎日、往診等の対応があり、看取り計画を作成し、職員も含めチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルの作成と共に、勉強会や講習を通して、スタッフの実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や、搬送訓練などの消防訓練を実施している。消防署の立会いの他、地域の住民の参加も得て、協力体制を築きつつある。	総合訓練は年2回、消防署員立ち会いや近所の方の参加もあり、実施している。年間計画に沿って毎月防災訓練を行い、課題についての意見を出し合っている。備蓄もされている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや接遇に関する研修、勉強会を通して、利用者様の自尊心や羞恥心に配慮した態度、言葉掛けに心掛けている。	プライバシーや接遇の勉強会で、利用者への対応を確認している。利用者への声掛けは職員同士でチェックしあい、自分がされて嫌な言葉かけはしないよう気を付けている。同性介助を希望される方には、同性で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方に関しては、尊重できる支援を行い、決定が難しい方については、その方の情報をもとに、こちらから働きかけ、表現できるよう支援をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や消灯、食事に関してはある程度決まった時間に声掛け、提供を行っているが、希望があった際にはそれにそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣は出来る限り自ら行って頂き、必要に応じて衣類の調整などの支援を行っている。また御家族様の協力により、行きつけのサロンへと通ったりされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事作りには利用者様の出来る事を把握した上で、可能のことはお手伝いを頂いている。また利用者様と職員が同じテーブルにつき、一緒に食事を摂っている。	配達された食材を使いながら、利用者の好みに合わせて献立はアレンジしている。職員も一緒にテーブルを囲み、食事が楽しめるよう支援している。月3回の弁当の日は、ご飯とみそ汁は温かい物を事業所で用意している。外食日も設け少人数で出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が作成している。食べる量や水分量はチェック表で把握している。それぞれの利用者様の状態にあわせて適宜調整を行い、必要な量を摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにより行って頂いている。自力で困難な方については個別にケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄のパターンを把握し、個別に支援を行っている。オムツ等を使用している方についても、清潔保持を第一に考えた支援をしている。	把握した排泄パターンに合わせて、トイレ誘導し、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツやオムツを使っている人へ就寝前に清拭することで、熟睡されている。声掛けもさりげなく行い、居室のトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事形態に注意し、予防に取り組んでいる。食事や体操で改善が見られない場合は医師や看護師へ相談を行い、便秘が悪化することのないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あらかじめ入浴したい時間帯の希望をきき、そえるよう努めている。またそれぞれのペースに合わせて入浴ができるよう支援を行っている。	入浴時間は利用者の希望を聞き、対応しており、週2～3回は入浴できるよう支援している。ゆず湯や菖蒲湯など季節感が味わえるよう取り入れている。拒否される場合は夕食後に声掛けすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望や状態に応じて、休息をとって頂いている。安眠につながるよう、温度湿度の調節を行う他、使い慣れた寝具を使用し頂く等、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は職員全員が周知できるよう、一覧表も作成しており、変更等があった際も申し送り事項としている。医師との密な連携にも心がけ、状態に合わせた支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの力を活かした役割として、洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。音楽が好きな利用者様が多いことから、BGMで懐メロを流すなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の際に外出を行っている。また、御家族様の協力により、食事や馴染みの美容室などへ外出して頂いている。	買い物などの希望は個別に対応している。事業所全体で出かけるお花見や紅葉狩りなどには、家族の参加もあり、介護サービス相談員も参加されている。季節により近所を散歩する方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持が可能な方に関しては、御家族様との相談の上、所持して頂いている。ご自分でほしいものがある場合は職員に頼んでいる。パンの訪問販売の際に支払いも行う姿も見られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻繁に電話をかける方については、その旨を御家族様より了解を頂いている。届いた手紙やはがきもご本人に渡した後に、居室内にかざるなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、リビングの壁面などに見合った飾り付けをしている。温度や湿度、テレビの音量やCDの音量にも気を配り、居心地の良い空間となるよう努めている。	居間にはソファ、テーブル・椅子、畳のコーナーの炬燵がある。利用者で作った団子刺しなどを飾り、夏は七夕飾りなど季節行事も大事にしている。目に付くところには鉢植えの花やアートフラワーなども飾られ、温度、湿度、照明等が調節されており、利用者はそれぞれの場所で思い思いにくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルや椅子を利用者様の相性を考慮して配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	御家族様の協力を得て、それまで使っていた家具や湯のみ・茶碗といった日常品をホームに持ち込んで頂いている。また御家族様の写真なども居室内に飾るなど安心して過ごせる空間作りをしている。	居室のドアには表札用の名札が掛けてある。寝具類は自宅で使用していた馴染みの寝具を使用し、冬には湯たんぽや電気アンカを使用する人もいる。テレビやテーブル、椅子、チェストなどの家具類も、使い慣れた物を持ち込んでおり、絵や写真なども利用者の好みに合わせて飾り、温度、湿度をチェックし、心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置により、それぞれの状態にあわせた歩行の支援ができている。居室の戸には表札が掛けてあり、目印となっている。		